

第78回文化祭

なう

絢

【テーマに込めた想い】

縄(78)は細い繊維を太く丈夫な一本に絢うことによってできています。私たちも一人一人は小さな力であったとしても、それぞれが協力することによって一本の縄のようになり、文化祭を成功に導きたいという想いを込めています。西高に昔から受け継がれてきた伝統を私たちが絢い続けることで、次世代へつなげられていきます。また、「Now」ともとれることから、伝統を作る中にも今を重んじる気持ちを大切にしたいという願いも込められています。

目次

Part1

文化祭の概要
プログラム内容

Part2

準備について

Part3

1日目オープニング
スピーチコンテスト
文化部展示
学年展示
ミニフェスティバル
スタンプラリー・謎解きウォークラリー

Part4

オープニングプロジェクト
学年劇
生徒会の動き
最後に

文化祭の概要

姫路西高校の文化祭は2日間に分けて開催されます。

【1日目 於：姫路西高校】2025年4月17日(木)

オープニング・スピーチコンテスト本選・文化部展示・学年展示(新2年)・
ミニフェスティバル・スタンプラリー・謎解きウォークラリー・
SSH発表会・図書館解放・PTA喫茶

【2日目 於：姫路西高校】2025年4月18日(金)

オープニング(オープニングプロジェクトチーム)・文化部ステージ・学年劇(新3年)・
幕間仕事人・応援団・エンディング

姫路西高校文化祭では毎年、テーマ・ロゴデザイン・Tシャツを作っています。

【テーマ】

絢(なう)

全校委員長 上田 彩葉さん考案(由来は表紙に記載しています)

【ロゴデザイン】

78回生 岸本 理央さん制作

今回の文化祭テーマである「絢」に込められた想いを出来るだけ表現できるようなデザインを心がけました。

「伝統の糸を受け継いで一本の縄に」と言うのが特に印象的だったので、第77回文化祭のモチーフにもなった虹をイメージして、絢われる前の糸を7本にしています。先輩方がこれまでに培ってきた伝統を継承しつつ、自分たちらしい文化祭にできたらと思っています。(岸本 理央さんより)



【Tシャツ】

文化祭Tシャツは、生徒会執行部とその他の役職で色が異なり、希望すればだれでも購入することができます。



プログラム内容

1. 開会式(1日目)

文化祭1日目は吹奏楽部によるファンファーレから始まります。その後生徒会執行部の担当役員が作成したオープニング映像が流れ、開会式がスタートします。「絢」というテーマをもとに作成された映像が終了し、スクリーンが上がってロゴが登場したときは会場が拍手に包まれました。

オープニング映像を観た後は教頭先生による開会宣言、学校長挨拶、全校委員長挨拶、文化委員長テーマ説明が行われました。



↑ 吹奏楽部によるファンファーレ

2. SSH発表会(1日目)

昨年度、2年国際理学科の生徒が取り組んだ課題研究の中で評価の高かった研究グループがプレゼンテーションを行いました。これから行っていく探究活動の参考になるよう、1年生全員が参加しました。

3. 図書館解放(1日目)

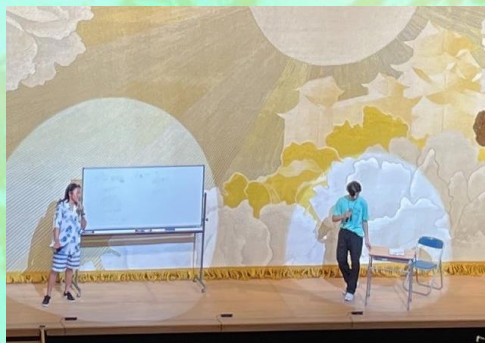
姫路西高校の図書館は、兵庫県内でトップクラスの蔵書数を誇っており、様々なジャンルの本が所狭しと並んでいます。そんな図書館を自由に見学していただけるように、文化祭1日目限定で開放しました。

4. PTA喫茶

PTAの方が運営を行われ、コーヒー等のドリンクと、ケーキ・和菓子などが提供されました。毎年、生徒、保護者の方々にとっての憩いの場となっていました。

5. 総合司会(2日目)

文化祭2日目の進行を務めます。各団体が緞帳の裏で準備を進めている間、漫才やコント、質問コーナーなどで会場の雰囲気を和ませつつ進行を円滑に進めます。今年は部活動や文化祭ステージに出演する団体にインタビューをしInstagramで文化祭の一部始終を配信してくださいました。



6. 幕間仕事人(2日目)



ステージの間を取り持つ係です。幕間仕事人は「準備について」にあるように、オーディションで選ばれたグループが担当します。今年は「GODA-F」というコンビが見事選ばれました。春休み中にもたくさん練習し、漫才で会場を大きな笑い声であふれさせてくださいました。



7. 応援団(2日目)

お昼休憩が終わって最初に発表する団体は応援団です。東西体育大会と同様、応援と演舞、そして3・3・7拍子を披露します。78回生応援団が応援する最後の機会だったこともあり、熱のこもった演技で会場を圧倒しました。



8. 文化部ステージ(2日目)

2日目はアクリエひめじで開催されます。ステージで発表を行うのは写真左上から順に「バトントワリング部」、「室内合奏部(吹奏楽部との合同オーケストラあり)」、「音楽部」、「箏曲部」、「ギター・マンドリン部」、「吹奏楽部」の計6部活動です。どの部活動もそれぞれの個性を発揮したすばらしいステージとなっており、とても見ごたえのあるものばかりでした。

また、なかには文化祭でのステージを最後に3年生が引退する部活動もあり、その熱量や3年間の努力の結晶を感じられる貴重な時間でした。



9. エンディング(2日目)

エンディング映像が終わると、文化委員長が緞帳の前で挨拶をします。半年間かけて準備してきた文化祭をおえて、会場にいる方々に感謝の気持ちをお伝えできる最初で最後の機会です。文化委員長の挨拶のあとは吹奏楽部の生演奏でゆずの「栄光の架け橋」を歌います。劇団関係者や総合司会、幕間仕事人、生徒会役員はステージ上で、それ以外の生徒は客席で隣の人と肩を組んで歌いました。ステージから見た、全校生徒が客席で歌っている様子は本当に美しく、一生の思い出に残る景色となりました。



準備について

大まかな準備の過程をご紹介します。

大まかな時期	準備内容
10月下旬	生徒会執行部内で役割を決定します。
11月	【テーマ・ロゴデザイン決定、各役職募集】 第78回文化祭では、テーマは生徒会執行部内から、ロゴデザインは78回生から募りました。
12月下旬	【劇団シナリオ会】 各劇団の団長、副団長、シナリオライターでシナリオ会を行います。この時期のシナリオ会では、登場人物の設定や大まかなストーリーの内容を話し合います。シナリオ会は2月くらいまで複数回行われます。 【オープニングプロジェクト発足】 オープニングプロジェクトチームに応募した新3年生の中から団長、シナリオライターを選出し、制作やシナリオなどの役割分担を行います。新2年生もオープニングプロジェクトチームに応募することができますが、募集期間は1月上旬～1月中旬になっています。
1月中旬～	【各役職のオーディション】 ミニフェス、劇団、総合司会、幕間仕事人のオーディションを行います。審査基準に達する応募者がいなかった場合は二次予選を行うなど、妥協することなく選考します。
1月下旬	【Tシャツデザイン決定】 Tシャツのカラーやデザインを決定します。例年、新3年生の学年カラーでTシャツを作っています。 【スピーチコンテスト1次予選】 各クラスでスピーチコンテストの1次予選が行われます。1次予選ではクラスメイト全員が1人2分ずつスピーチを行い、クラス内の投票で2次予選出場者を選出します。また、各クラスから1名が2次予選に立候補することもできます。

2月上旬	【スピーチコンテスト2次予選】 各クラスから選出された弁士による2次予選が行われます。先生方と生徒会執行部の担当者の審査によって本選出場者を決定します。
2月中旬	【学年展示内容決定】 新2年生(79回生)がクラスごとに行う学年展示では、各クラスの個性が光った展示が毎年披露されます。ここで展示のコンセプトや大枠を決定します。第76回文化祭まではコロナのため動画作品のみでしたが、第77回を経て今年は何のクラスも体験型の展示内容でした。展示内容の世界観を表現するため、レイアウトや装飾に工夫を凝らし、教室は非日常的な雰囲気に包まれました。
3月上旬	【Qシート提出】 2日目のステージに出演する団体は、演出の内容をアクリエひめじのスタッフの方と共有するため、Qシートという照明や音響のタイミングが書かれている資料を作成する必要があります。打ち合わせ前に一度この時期に提出し、ミスがないよう丁寧に確認します。 【プログラム作成】 プログラムは、全校生徒や保護者の方々に配布する各団体の紹介文も入ったものです。業者の方と打ち合わせを何度も重ね制作していきます。プログラムの制作担当は生徒会執行部です。
3月中旬	【クラス写真撮影】 文化祭2日目のエンディング映像で使用するクラス写真を撮影します。 【スピーチコンテスト外部指導】 スピーチコンテスト本選出場者を対象に外部講師による指導が行われます。発声方法やマイクの正しい位置など、細かいところまでご指導いただくことができます。
3月下旬	【要項作成】 要項自体は12月あたりから作っていますが、完成するのはこれくらいの時期です。文化祭は要項をもとに動くので、とても大事な要素となっています。要項の制作担当は生徒会執行部です。 【各役職制作・練習開始】 学年末考査が終わり春休みに入ったら、各団体、本格的な準備がスタートします。 学年劇ではキャストの練習(数回の外部指導含む)や大道具・小道具・衣装の制作を、オープニングプロジェクト(2日目のオープニング制作チーム)は映像やモニュメントの制作を、展示を行う団体は展示物の制作など、それぞれの担当する場所の準備を行います。

3月下旬	【学年展示準備開始】 撮影などの準備ができるのは春休みに入ってからです。1年前、入学したての頃に見た学年展示のクオリティにあこがれて制作に力を入れる生徒も多いです。各クラスの文化委員を中心に制作をしていきます。映像作品では脚本から撮影、編集までを全て自分たちで進めていきます。 【アクリエひめじスタッフとの打ち合わせ(1回目)】 アクリエひめじ大ホール舞台袖で、スタッフの方々と各団体の担当者が事前に作成していたQシートをもとに打ち合わせをします。スタッフの方々がアドバイスをくださったり、私たちのイメージを直接お伝えしたりできる機会になっています。
4月上旬	【2日目プログラムリハーサル】 体育館で実際の舞台の大きさのステージを作り、文化祭2日目のプログラムのリハーサルを行います。舞台の配置や、時間内に収められているか、Qシートの内容に無理がないかなどの細かいところを関係者全員で確認します。 【アクリエひめじスタッフとの打ち合わせ(2回目)】 この打ち合わせで、ステージの演出が決定します。
4月17日 (文化祭1日目)	1日目は校内で開催されますが、2日目の仕込みや大道具・楽器等の運搬を行うため、2日目ステージ出演者はアクリエひめじに準備に行きます。仕込みの内容は、実際に演技をしたり、照明や音響の確認をしたり、立ち位置にバミリをするなどです。仕込みが時間通り円滑に行われるようにアクリエひめじのスタッフの方々と生徒会執行部の担当者がサポートをします。

1日目オープニング

1日目オープニングは文化祭1日目に体育館で流す動画のことで、全校生徒に文化祭開幕を伝える重要なものです。そのため、文化祭には欠かすことのできない存在です。

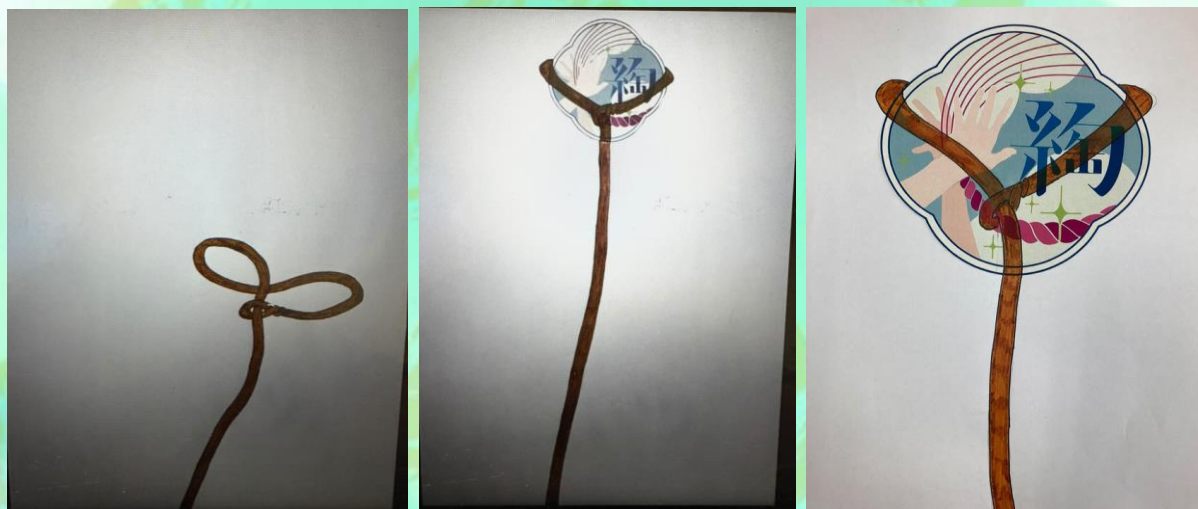
～動画制作について～

今回の文化祭のテーマ「**絆**」は、一人一人は小さい力であっても、互いに手を取り合うことで1本の丈夫な縄【(78)←78回生】になるといった意味が込められており、そのことを意識して動画を作りました。

ここで・・・

今回の動画制作で私が一番困ったことは何をしたらいいのか分からなかったことです。編集知識が1つもない中、頭に浮かんでいるイメージを1から作り出すのは本当に大変でした。とりかかるのは早いに越したことはないなと感じました。

最初に作ったのはロゴを縄で引き寄せるシーンです。画用紙に下から縄がロゴに向かって伸び、画面中央に引き寄せるようにしました。この作業はコマ撮りで表現しました。



次に、イントロ部分の撮影を行いました。画用紙に「第78回文化祭」と書いて生徒会メンバーにその画用紙を持ってもらい、左から順に1人ずつ増えていくようにしました。



その後、ギター・マンドリン部、男子バスケットボール部にお願いし、撮影しました。ギター・マンドリン部では演奏している様子を、男子バスケットボール部ではレイアップと3Pシュートの様子を撮影しました。どちらの映像も迫力があるものになりました！



最後に協力してもらったのは、文化祭で欠かすことのできない存在の”劇団”（竜宮座、ミラージュ）の練習している様子を撮影しました。役者の迫力ある演技を撮ることができて良かったです。



文化祭当日、放送部と入念に確認していましたが、再生ボタンを押す時は少し緊張しました。無事に動画が流れ、終わった後の拍手は今でも忘れません。ここまでやってきて良かったと感じました！私1人では到底完成することはなかった動画です。撮影に協力してくださった方々には感謝しきれません。本当にありがとうございました。

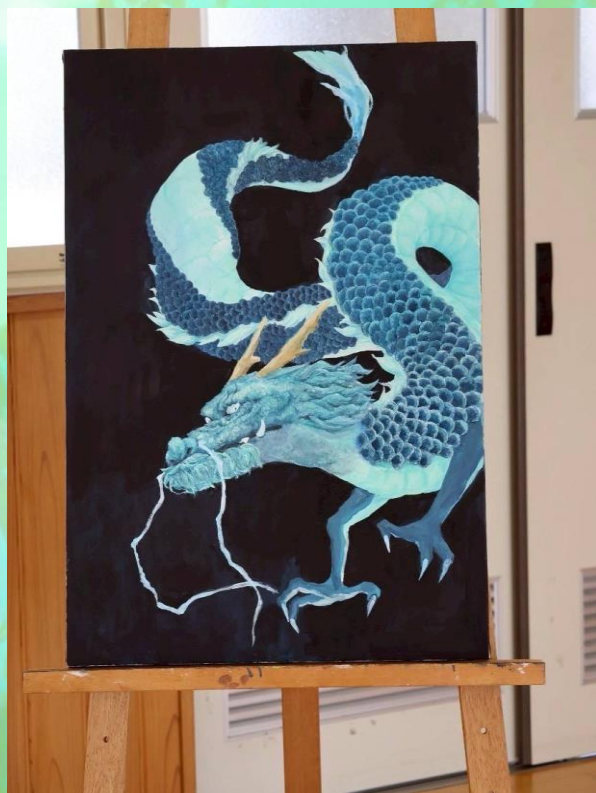
スピーチコンテスト

生徒会でスピーチコンテストを担当した松村岳です。文化祭の一番初めにあるスピーチコンテスト。文化祭1日目の場の空気を決めるのがスピーチコンテストだと思います。特に何も知らない1年生は、つまらなそうだなあと考えていた人も多いでしょうが、練習を重ねてすばらしいスピーチを仕上げてくれた弁士の人たちに圧倒されたことでしょう。どのスピーチも自己の体験や自分の好きなことなどについて、ユーモアにあふれながら、それでも自分がスピーチを通じて伝えたいことをしっかり述べるすばらしいスピーチでした。さて、今年のスピーチコンテストでは大きく審査基準の改正が行われました。具体的にはスピーチの主題や内容についてより社会性や普遍性を問う審査配点になり、また、スピーチの時間制限も非常に厳しくなりました。いい大学に行ったからよい、ではなく、自分にできることは何か、ほかの人にはない自分の魅力は何かについて発信することを求められる現代社会。時代の変遷とともにスピーチコンテストの在り方も変わってくるのかもしれない。



文化部展示

今年の文化祭も計14の文化部が日々の活動の成果を展示しました。試行錯誤して制作した作品を展示したり、お菓子の販売をしたり、実際に活動の一部を体験してもらったりしました。近畿大会、全国大会に駒を進めるような実力ある部も多く、1年生の皆さんに「この部活に入りたい」と思ってもらえる良いきっかけになったと思います。また、展示に並行してスタンプラリー&ナゾトキウォークラリーを行いスタンプを集めた生徒に今年度の文化祭ロゴの入った葉が贈られました。



学年展示

文化祭1日目、2年生は旧クラスでの展示を行いました。

1組はお化け屋敷「The House of the Dead ～死者が住む家～」、2組はミニゲームとフォトスポット「08の世界」、3組はクイズメイド喫茶「メイドクエスト かわいいだけじゃダメですか?」、4組は占い「ト・キ・メ・キ♡ミライの館～ありのままのあなたを～」、5組はミニゲーム「5組のアソビ大全」、6組は脱出ゲーム「脱出ゲーム 名探偵コドン～コサウインの花嫁～」、7組はファッションショー「Nishi Collection -ニシコレ-」をしました。

1月頃から希望調査をとり、本格的に学年展示の準備が始まりました。はじめは分からないことが多く先輩や先生に質問してばかりでしたが、次第に慣れてきて自分で提出期限を決めたり、teamsを使ってcmの準備を呼び掛けたりすることが出来ました。

前日準備の際は、パネルの枚数の不足や腕章の貸し出しなどの様々な問題が発生しました。当日は、混雑状況システムの不具合やミニフェスとの兼ね合いが困難でした。

大変なことや辛いことも多かったですが、各クラスの文化委員を中心とした2年生全員と先生方のご協力のおかげで、無事に全クラス成功させることが出来ました。入学してきたばかりの1年生にも、西高の文化祭を楽しんでもらえたと思います。



ミニフェスティバル

今年も無事ミニフェスを1日目にできました。選択2で集まったり、出場者・司会者ともにリハーサルをしたり本番に向けてたくさんの準備をしました。そして本番、時間はたった1時間半だったけど、演奏や司会者のトークすべての瞬間がそれまで出場者と司会者、そして生徒会で協力して準備してきた時間がつながっていることを実感して今までに感じたことのないほど感動しました。室内合奏部と同じ部活のチームワークで洗練されたハーモニーを奏でてくれた夕。演奏で観客を楽しませてくれただけでなく、ポスターに隠し要素を入れるなど音楽以外の面でも斬新で楽しいギミックを仕込んでくれたyao-yao。そしてスタイリッシュな衣装で身を包み、熱気あふれるパフォーマンスをしてくれたいとをかし。どのグループもとても個性的でした。司会者のトーク力も抜群でかなり業者さんとの兼ね合いでつなげてもらわないといけない時間がかなりあったけど、もっている豊富な引き出しから様々な話をしてくれて、そして観客を楽しませてくれて安心して運営ができました。司会者も出場者のメンバーも明るくて面白くてそして優しい人ばかりで今年のミニフェスを担当できて本当に良かったと思いました。改めてミニフェスに携わってくださった方々へ、本当にありがとうございました！



↑夕



↑ yao-yao



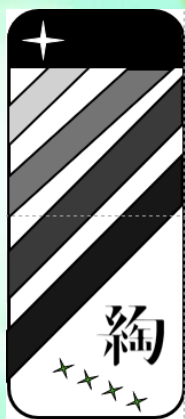
←いとをかし

スタンプラリー&ナゾトキウォークラリー

文化祭1日目に毎年恒例で行われるスタンプラリーですが、今年は拡大して「スタンプラリー&ナゾトキウォークラリー」を行いました。

「校舎のいろんな場所に足を運んでもらう」というコンセプトのもと、従来のスタンプラリーの要素に加えて校内の各所でナゾトキも実施しました。校内マップにナゾを仕組んだり、吹き抜けを活用した展示を行ったりして好評を博しました。保護者向けに当日用意していたスタンプ・ナゾトキ用紙が全てなくなるほどの人気でした。

この画像は今年の景品のひとつ、短冊型のしおりです。ロゴをモチーフとしたデザインで、オレンジとグリーンの二種類がありました。

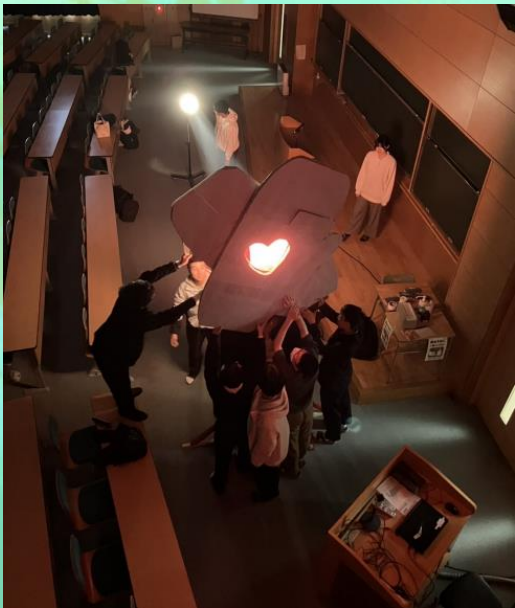


オープニングプロジェクト

文化祭2日目を飾るオープニングプロジェクト、今年はドラえもんを題材とした作品となりました。
未来からやってきた博士の頼み事は、世界中の絆を繋ぎとめるために彼の発明品を守ること。
”ひみつ道具”を手にした小さなヒーローたちは、果たして絆を守りぬくことができるのか。
アクリエひめじの舞台で世界の平和と文化祭の成功をかけて行われる5人の戦いを是非ご覧ください。
西高の伝統的にオープニングではセリフを用いずに舞台上でのキャスト達の演技、圧巻の大道具、映像演出によって作り出されます。大道具制作や映像作成に興味がある人、西高の文化祭に関わりたい人はぜひオープニングに参加してみてください。
今年は文化祭テーマ「絆」に合わせて大きな絆が西高生の間で結ばれました。
第78回文化祭2日目をお楽しみください。

～制作スケジュール～

12月	2年生募集・役職決め
1月	1年生募集・シナリオ制作開始
2月	シナリオ制作完了・大道具設計開始
3月	大道具設計図完成・劇練習
春休み	小、大道具制作・撮影・編集・劇練習
文化祭前日	大道具完成
文化祭1日目狩猟後	アクリエひめじにてリハーサル・最終調整
文化祭2日目	本番ステージ



学年劇

about —学年劇とは

姫路西高校の文化祭では、新3年生が2つの劇団に分かれてオリジナルの演劇を披露するのが伝統になっています。学年劇はテーマ決定から製作、細部の演出に至るまで生徒主体で進められる、文化祭の一大プロジェクトです。ここでは、第78回文化祭で結成された2つの劇団をご紹介します。

劇団『竜宮座』（旧2年1組・2組・3組）

～演目『泡沫の玉手箱』～

「絶対に開けないでください。」開ければたちまちおじいさん。
乙姫は“なぜ”浦島太郎に玉手箱を渡したのか？現代を生きる高校生、海聖はその真実の追ろうと奮闘する。その中で友人の湊、波琉、渚の交錯する想い。海聖たちが見つけた伝統の続きとその真実とは…？
浦島太郎の物語が、今、完結する！

劇団『ミラージュ』（旧2年4組・5組・6組・7組）

～演目『運外鏡』～

生まれつき運の悪い女子高生千紗は、両親が旅行で一週間、学校近くの祖父の家に滞在することになった。そこで不思議な鏡から出てきた鏡の世界の自分、サチと出会った。しかし、鏡には重大な秘密が…！

staff —学年劇に携わる人たち

団長(1名)

劇団の責任者です。キャスト練習を進めたり、企画部と連携して準備の計画を立てたりと、劇団全体を見渡し、メンバーを引っ張る立場です。
リーダーシップや広い視野が求められます。

副団長(3または4名)

団長とともに劇団運営の中心となります。それぞれが企画部を分担して受け持つこともあります。

シナリオライター(1～3名程度)

劇の出来栄を決めるともいわれるシナリオを制作します。書いて終わりというわけではなく、本番直前までメンバーと話し合っ改訂を続け、演出にも関わる重要な役職です。

キャスト(15名程度)

舞台上で演じる人をいいます。セリフを覚えるという難しさもありますが、キャラクターになりきるために大きな努力を重ねます。

企画部(21または28名)

各クラスから7名を選出し、大道具・小道具・衣装・化粧・音響・照明・会計の7種類に分かれます。予算や資材、時間が限られる中、完成度の高いものを創るため試行錯誤します。春休みから本番まで、役職によっては本番終了後も仕事があり決して楽ではありませんが、その分やりがいも大きなものです。

制作部(多数)

大道具・小道具・衣装の3種類があり、企画部の指揮のもとで実際の作業を行います。上記の役職に所属しない生徒は制作部になります。また、本番で舞台の転換作業にあたる黒子なども制作部の中から選ばれます。

schedule ー第78回文化祭 学年劇ができるまで

2024年	
11月上旬	役職決定 団長をはじめ、劇団の中心となるメンバーをクラスで選出します。
12月上旬	シナリオ会開始 団長・副団長・シナリオライターで構成される「シナリオ会」が始まります。時間をかけ、劇のテーマや方向性を話し合います。ここで決まった内容をもとに、冬休みにシナリオライターがシナリオを書き、何度も改訂が繰り返されます。シナリオの修正は本番直前まで続きます。
2025年	
1月中旬	キャストオーディション キャストをオーディションで決定します。シナリオ会のメンバーをはじめとする審査員が定めた基準をもとに、幅広い観点から審査します。
3月上旬	企画部 活動開始 大道具・音響・照明は会場スタッフの方との打ち合わせの都合上、早い段階から書類作成などの準備を行います。これら以外の担当も、製作の計画を立てるなど、春休みの作業に向けて準備を整えていきます。
3月中旬	演技の練習が始まります。まずはゲームなどを通じて信頼関係を深め、それからセリフの練習、演技の細かな調整と順を追って進められます。プログラムを考え、練習をまとめるのもシナリオ会のメンバーをはじめとする生徒です。なお、外部の先生にお越しいただいてアドバイスをいただく機会が計5回あります。プロの的を射たご指摘によってシナリオが大きく変わることも少なくありません。

春休み	本格的に準備開始 制作部も含め、すべての部門で準備が始まります。部活動をおろそかにしないため、準備や練習は原則として午前中に限られます。本番が日に日に迫る中、人材や知識をフル活用して全力で取り組みます。また、春休み中は会場であるアクリエひめじのスタッフの方との打ち合わせが2回あります。スタッフの方に演出の希望を伝え、確認や修正をしたり、助言をいただいたりします。
4月17日(木)	会場仕込み 学校では文化祭1日目が行われている中、劇団メンバーはアクリエひめじ大ホールで大道具や音響・照明の調整、キャストの位置調整などを行います。劇団の持ち時間は1時間しかないため、団長の指揮のもとで手際よく作業が進められます。
4月18日(金)	本番 アクリエひめじで行われる文化祭2日目こそが、劇団にとっての本番です。楽屋で衣装の準備やメイクを行い、上演開始1時間前からはリハーサル室で演技の最終確認をします。直前のプログラムが終了したら、素早く舞台をセッティングします。そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長やシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたった準備や練習があらわれたものといえるでしょう。40分間のストーリーが終了すれば、劇団メンバーがダンスをしたり、感謝の気持ちを込めて一礼したりと、思い思いのカーテンコールが繰り広げられます。緞帳が再び下りると、舞台裏は客席とはまた違った感動に包まれます。これを読んでいる在校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいです。



← 劇団ミラージュ



↑ 劇団竜宮座

文化祭における生徒会役員の動き

文化祭は生徒会執行部が企画・運営をします。開催の約半年前、後期生徒会執行部発足と同時に文化祭に向けての準備が始まりました。生徒会役員の中で学年劇、学年展示、文化部展示、1日目オープニング、スピーチコンテスト、ミニフェスティバル、スタンプラリー、2日目オープニング、2日目エンディングという担当に分かれて、企画の運営準備を行いました。

春休みに入るまでに行われた主な文化祭準備としては、ミニフェスのオーディション、スピーチコンテスト1次予選および2次予選実施、学年展示の内容決定などがありました。どれも生徒会執行部が中心となりながら、全校生徒や先生方と一丸となって準備、運営をしていきました。



↑ロゴを制作している生徒会役員

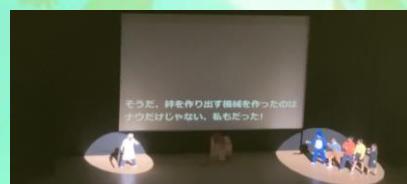
春休みに入ると、役員は各々の仕事を行いながら、空いた時間を見つけてロゴのモニュメントの作成等、協力して準備を進めました。また、1日目オープニングや2日目エンディングで使用するための各部や団体の写真や動画の撮影も行いました。

文化祭前日、4月16日には1日目に展示をする団体の準備やミニフェス、吹奏楽部のリハーサル、ロゴの取り付けをし、1日目のオープニングから開会式までのリハーサルを何度も繰り返しました。

そして文化祭1日目。生徒会役員は緞帳やスクリーンの開閉、体育館の照明、開会式の後のステージセッティングなど、それぞれの持ち場についてオープニングセレモニーを見守っていました。動画が流れた後にスクリーンがあがってロゴが登場し、体育館が拍手に包まれたときはとても感動しました。その後開会式、スピーチコンテストへと続きました。スピーチコンテストでは、生徒会役員も審査員として2名参加し、コンテスト終了後は他の審査員の先生方と会議を行い、受賞者を決定しました。スピーチコンテストの後、生徒会役員はミニフェスティバルの準備、観客の誘導等を行います。それと同時に、アクリエひめじでは2日目に向けた準備が進められていました。学校での学年展示、文化部展示が終了したら、校内に残っていた生徒会役員はアクリエひめじに集合し、日が暮れるまで2日目ステージ出演団体とともに翌日のリハーサルを行いました。

Part4

そうして迎えた文化祭2日目は、一般生徒の誘導からスタートしました。生徒が入場し終わった後はステージの時間管理、各団体の誘導など、スムーズな進行になるよう、それぞれが連携を取りながら仕事にあたりました。半年間かけてきた成果がやっと見られるという思いで、生徒会役員は全員、ステージを楽しんでいたように思います。エンディングまで無事成功し、緞帳が下りていているときの観客のみなさんからのあたたかい拍手で、半年間頑張ってきてよかったと感じました。



あ と が き

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

第78回文化祭は、「絢」というテーマ通り、西高生全員が協力し、伝統を重んじながらも新しいことへ挑戦し続ける、すばらしいものでした。

1日目、2日目の文化祭を舞台袖から見ていて、全てのプログラムにおいて、みなさんがいきいきと練習の成果を発揮されたり観客席から楽しんでおられたりする様子に感動しました。

今回の文化祭は、78回生をはじめとする生徒のみなさんの熱い思い、卒業された先輩方からのあたたかいアドバイス、どんな時も寄り添ってくださった先生方、私たちが思い描くステージを実現するためご尽力いただいたアクリエひめじのスタッフの方々、限られた時間の中で最大限のご指導をしてくださった外部指導の先生方など、第78回文化祭を実施するにあたり携わっていただいたすべての方々のご協力があったからこそ大成功を収めることができました。みなさまに多大なる感謝を申し上げ、最後の言葉とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

制作者紹介(156代生徒会執行部)

表紙・あとがき	廣瀬あこ(文化委員長)
文化祭の概要	
プログラム内容	
準備について	
生徒会の動き	
1日目オープニング	本多琉希(1日目オープニング担当)
スピーチコンテスト	松村岳(スピーチコンテスト担当)
文化部展示	三島光太郎(文化部展示・プログラム担当)
学年展示	木南優佳(学年展示担当)
ミニフェスティバル	飯田孔・尾台莉都(ミニフェスティバル担当)
スタンプラリー&ナゾトキウォークラリー	津田匠(スタンプラリー&ナゾトキウォークラリー担当)
オープニングプロジェクト	金川恵士(オープニングプロジェクト担当)
学年劇	上田彩葉(学年劇担当)